



申7号

2023年度年末手当に関する申し入れ

第1回団体交渉を行う！②

年間6ヶ月以上の年末手当を求める！

労働実感・実態

● 駅窓口の廃止・業務委託化、車両検査体制の見直し、スマートメンテナンス、ワンマン運転の拡大と施策に加え、現業機関における企画業務や、運転士と車掌の相互運用、「連携と融合」で多能化が進み、一人二役、三役以上となり、労働密度は高まり続けている。

● 厳しい労働実態に拍車をかけているのが要員不足の問題だ。定年退職に加え、離職者増・採用減など、医療現場を含めて系統を問わず「人が足りない」と悲痛な声があげられている。日々の要員を確保することにも苦勞し、生活設計も成り立たなくなるほど厳しい労働環境になっている。

● エルダー組合員も厳しい環境のなか、グループ会社も下支えしている。

● 矢継ぎ早な施策によって、不満や不信感が渦巻いていると言わざるを得ない。

組合員・社員の「働き度」は高まり続け、職場現実も含めコロナ禍前以上の労働実感・実態となり、社員数が大幅に減少しているなか、一人当たりの売り上げは過去最高となると認識する。社長名で「グループ社員の皆さんへ」が配信されたが、職場現実を直視して受け入れ、組合員・社員のたゆまぬ努力を年末手当の主たる要素とすべきだ！

今年度夏季手当交渉では、コロナ禍を乗り越え 3 期ぶりに黒字転換した努力に報いるべきと訴えてきた。会社の持続的発展を実現するために、賃金で応えるべきだと強く求めてきた。組合員・社員は会社の発展をめざし、変革に向き合い続けている！現場目線を大切に、会社も主役としている組合員・社員の奮闘に応え、大切に経営姿勢を示していただき、要求満額を強く求める！

会社はコロナ禍前に戻す気はないのか！！

◆安全・安定輸送、日々の業務遂行、組織再編、「融合と連携」の様々なチャレンジに感謝申し上げる。

◆第2四半期決算が発表され本業の力を示す営業利益は単体 1550 億円となり黒字を計上することができた。

◆営業費用が増加している。黒字の水準はコロナ禍前の半分程度になると見込んでいる。目標達成にはより一層の増収とコストダウンを推進していく必要があると考えている。

◆コロナ禍前の業績の水準には及ばない経営状況である。変革 2027 で想定した人口減少等当社を取り巻く経営環境に変わりはなく依然として厳しい状況にある。

◆本業の力を示す営業利益がコロナ禍前の水準に及ばないということを冷静に受け止め、当社を取り巻く経営環境をしっかりと認識すると共に、通期の目標達成には更なる増収・コストダウンの取り組みを始め、生産性向上による経営体質の強化に向けた果敢な努力が必要である。

◆社員の皆さまには、モードチェンジに踏み出して新たな取り組みを進めて頂いている。変革 2027 の達成に向けた更なるスピードアップが必要である。会社の持続的な発展が社員還元の更なる充実、働きがいの向上、社員・家族の幸福の実現に繋がっていくという考えを前提に、支給水準は直近の業績動向を念頭に置き、今年実施した 29 年ぶりの平均 5000 円を超える水準の基本給改訂、仕事と育児の両立支援のさらなる推進の処遇改善等の状況も踏まえ、総合的に勘案していく必要がある。

第2回団体交渉は 11 月 7 日！